

【達成状況に関する評価基準】※運営に関する計画の評価基準と同じ  
 A : 目標を上回って達成した B : 目標どおりに達成した  
 C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

【別紙1－加算配付用】

## 令和元年度 校長経営戦略支援予算【加算配付】実施報告書(選定校記載用)

(校園コード 661456 )

※校園コードを入力してください。

学校名 今里小学校

※学校名は校園コードを入力すると自動で表記されます。

取組に対する評価状況

学校関係者による評価実施済

1 配付額 200,000 円 → 決算額 200,000 円

### 2 自校の現状・課題(※小・中学校においては、学力課題に限定)

平成30年度の小学校学力経年調査においては、標準化得点は96点～104点である。正答率が市平均の7割に満たない児童の割合が8%～18%となっており、学力の2極化が顕著となっている。主体的・対話的で深い学びの授業実践を進めるとともに、学力課題のある児童が基礎基本の学習内容を身につけられるよう、個に応じた指導を進めることが急務である。

平成30年度は漢字検定を校内で学年2回実施し、各回の再テストもすることで振り返り学習に取り組めるようにした。目標を持って学習し、成果が見えるようにすることで学習意欲の向上につなげてきたが、漢字の読み書きが苦手な児童は、教科書や調査問題の説解にも課題が大きく、スマールステップで達成感を積み重ねることで意欲を持つて学習を続けるようにすることが必要である。

平成30年度の経年調査結果を受けた学力向上推進委員会での検討により、

- ①短時間学習や読書タイムが確実に取り組める日課時間割の設定
- ②授業で学習内容の定着に活用するプリント教材の統一
- ③短時間学習に個に応じた進度が選べるプリント教材の導入

等の取り組みを今年度より始めている。

本校の教職員はICTを積極的に活用しており、児童もタブレット端末の扱いに慣れ意欲的に学習に活用してきている。基礎的基本的な学習の振り返りや定着にもタブレット端末を活用し、個に応じた学習指導を効果的に進めていきたい。

### 3 年度目標(※小・中学校においては、学力向上の目標を記載すること)

平成31年度の小学校学力経年調査における同一の母集団での比較

- ① 標準化得点を、いずれの学年も前年度より向上させる。
- ② 正答率が市平均の7割に満たない児童の割合をいずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。

平成31年度末の校内児童アンケートの「わかるまでくりかえし勉強をがんばっている」での肯定的な回答の割合を75%以上にする。(平成30年度 68.4%)

目標に対する達成状況(取組完了時)

経年調査の結果はほぼ全市平均と同等(R1標準化得点 99.875)といえるが、全年向上の目標は達成できない学年があった。また、上位層、下位層の児童の割合の2ポイント向上の目標は達成できず、学力の2極化の解消には至っていない。「わかるまでくりかえし勉強をがんばっている」での肯定的な回答の割合は、前年度を大きく上回った。(H30: 68.4% → R1: 90.9%)

達成

B

### 4 年度目標達成に向けた取組内容(予算反映するもののみ記載)

児童の学習意欲と基礎的基本的な学力の向上をめざし、習熟度別指導、補充学習、短時間学習にドリルプリントとともにICTを活用して、個に応じた学習指導をすすめる。

### 5 年度目標に応じた事業効果を測る指標(期待する効果等)

対象児童②の学期しんだんテストおよび校内漢字検定(11月・2月実施)の正答率を取組実施前後で20%増加させる

指標に対する達成状況(取組完了時)

年度末の臨時休校により3学期のしんだん、漢字検定は最終の取り組みまで実施できなかった。短時間学習や隙間時間にICTの活用も含めたドリル学習を行うことで、最後まで粘り強く学習に取り組むことには大きな成果が上がった。

達成

C

※事業効果は必ず数値目標を設定のうえ、進捗状況を測ることができる内容としてください。

### 6 年間スケジュール



取組

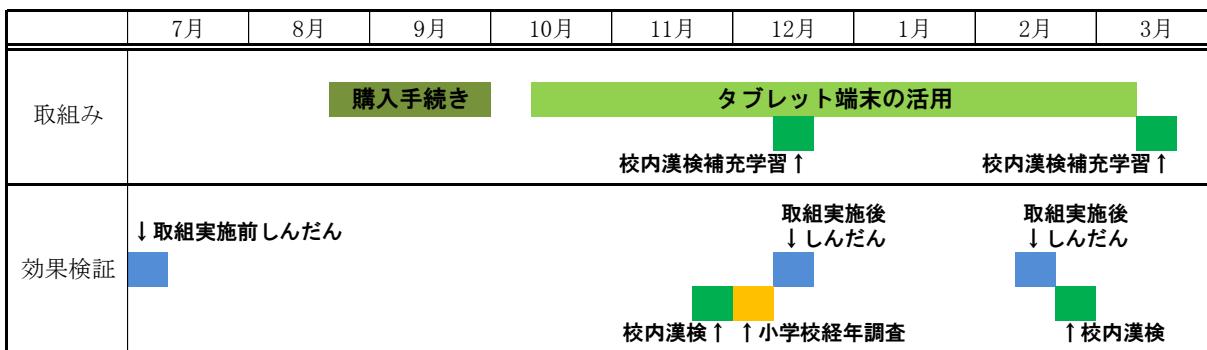
1

(校園コード 661456 )  
学校名 今里小学校

## 7. 取組内容・予算内訳

(1) 取組内容【施策番号 施策名】 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上の取組】 児童の学習意欲と基礎的基本的な学力の向上をめざし、習熟度別指導、補充学習、短時間学習にドリルプリントとともにICTも活用して振り返り学習や発展学習を行い、個に応じた学習指導をすすめる。 <ul style="list-style-type: none"><li>授業、短時間学習でのタブレット端末を活用した個に応じた指導</li><li>キーボード入力による読み書きの力の向上</li><li>校内漢字検定（11月・2月）に向けた漢字学習（漢字学習アプリの活用）と事後指導</li></ul>	委員会使用欄 達成 B
予算内訳	
11-1 タブレット用キーボード 03,000×40台 120,000円 11-1 キーボード保管ラック 030,000×2台 60,000円 11-1 タブレット用学習アプリ 0500×40台 20,000円	
期待される効果	習熟度別授業や短時間学習、隙間時間に、タブレットでキーボード入力や漢字学習アプリを活用した学習を児童が個々のペースで行うことにより、基礎的な学習を定着させたり発展的な学習に挑戦したりして「わかる喜び」「できる楽しさ」を味わい、学習意欲を高め、学力向上につなげることができる。

## (2) 取組内容に対する実施スケジュール



## (3) 取組内容に対する中間報告

スケジュールどおり実施できている。  
 スケジュールにやや遅れがあるが、取組は予定どおり実施できる見込みである。  
 スケジュールに大幅な遅れが出ている。(□他責・□自責)  
 [大幅な遅れがある場合]理由及び対処方法(年度末到達目標の修正など)

## (4) 取組内容に対する決算内訳

決算内訳	
11-1 タブレット用キーボード 02,174×40台 86,960円	
11-1 キーボード保管ラック 023,020×2台 46,040円	
11-1 「ゆび書き漢検」ライセンス 01,080×40台 43,200円	
11-1 映像変換アダプタ 03,575×6個 21,450円	
11-1 OAラベル 01540×1セット 1,540円	
0810×1セット 810円	合計200,000円

※取組内容はPDCAサイクルを意識して設定してください。委員会使用欄は空欄としてください。